

# とつておきの奈良

Vol. 31

ながら 御所市名柄 地区

## 日本神話に彩られ 深い歴史を持つ 神々の里、吐田郷

日本神話の舞台として古い歴史を持つ村落とされるのが吐田郷（現在の御所市名柄地区）です。「戒那千坊」と呼ばれ、千を超えるとされる寺社に守られた“神々の里”葛城の、かつての中心地ともいえる場所であり、江戸時代には宿場町として栄えた地。少し歩けば遙かな歴史の足跡に次々と行き当たります。

天武天皇が「流鏑馬」の原形にあたるとされる行事を行ったと「日本書紀」に記される長柄神社の近くには、樹齢約800年のケヤキやクスノキがそびえ立つ江戸中期の「末吉家」があります。さらに歩を進めれば約400年前、江戸幕府創設のも。名柄小学校の校庭からは古墳時代の

豪族居館が出土し、名柄池跡からは、銅鐸・銅鏡がセットで出土するという全国でも2つしかない出土の仕方をするなど、全国の考古学ファン注目の地でもあります。また、清流と砂質の土に育まれた「はんだ米」は、炊きたてのもっちり感はもとより、冷めても美味と人気。伝統の味が今も人々の暮らしを支え続けています。

集落は葛城古道に面しており、名所も古道周辺に集まります。古道散策を楽しむ人の助けに、地元住民による「吐田郷地区の文化を守る会」では、まちづくりマップを作成。事前に申し込めば会員がボランティアガイドとなつて、吐田郷の豊かな歴史口



「長柄神社」

由緒ある古社の本殿ひさしには、泥絵具で描かれた「八方睨みの龍」が。境内には樹齢数百年の巨木が立ち並び、そこに目をつむってたたずむだけで、心が洗われます。

「中村家住宅」

慶長年間に建立された名柄を代表する旧家。かつての代官屋敷で、入り口には江戸時代の手押し消火ポンプが、今も残っています。



「末吉家と巨木」

長柄神社そば、大庄屋だった末吉家住宅。母屋は江戸中期に建てられたもの。一帯には伝統的な町家建築が随所に残る。

「旧名柄郵便局」

レトロな外観が目を引く明治期の郵便局。今も内部には電話交換台が残る。葛城古道沿いに立つ休憩所として保存計画が進行中。



「吐田郷地区の文化を守る会」

歴史の勉強会を開いたり、地元小学校で講話をしてもどもたちと「はんだ米」を育てたり。次世代に吐田郷の歴史を伝え、名を残したいと地区住民76名で活動しています。(談)木村教養会長・写真左、澤房之介副会長 元国務大臣堀屋太一さんの実家である本池口家前にて)

■ボランティアガイド問い合わせ

御所市企画観光課 ☎0745-62-3001